

## GPSデータで見る最近の近畿地方北部の地殻ひずみ異常

## Last strain rate irregularity in the northern Kinki district by the GPS observation

# 大谷 文夫 [1]

# Fumio Ohya[1]

[1] 京大・防災研

[1] DPRI, Kyoto Univ.

近畿地方北部では、2003年始めから天ヶ瀬観測室他の坑道内地殻変動連続観測のひずみ速度変化や微小地震の静穏化などの現象が認められている。森井他により、兵庫県南部地震の前の変動との類似性なども議論されている。GPS観測では、花折断層の稠密観測網（京大防災研）において類似の傾向の変化が認められているが、本稿ではさらに、もっと広い範囲を議論できる国土地理院によるGEONETの観測データも用いてその空間的な広がりを調べ、降雨などの影響による見かけのものではないことを検証した。GEONET各点の座標日値の時系列データから原因が分かっているステップや年周変化を除去して、該当する時期にひずみ速度に変化が生じている範囲を特定した。2点間の距離変化から求めたひずみデータで見ると2002年の秋を中心に琵琶湖西岸北部から大津・京都、亀岡を経て大阪・神戸に至る地域の11測線において北西-南東方向に伸び、北東-南西方向に縮みという共通の主ひずみ軸で説明される不連続なひずみ速度変化が観測されている。大きさは主値が0.1マイクロストレイン/年のオーダーである。この方向は東海地方のスロースリップの方向とも調和的であり、広域な応力の変化に対応するべきものだと考えられる。また、2004年9月の紀伊半島南東沖地震をはさみ現在もこの変化後の速度で進行中である。140点の座標データの500ペアを越える組み合わせを10年分解析した結果、この変化は近畿の他地域では検出されず、また2001年以降では他の時期にも同規模同等の現象は認められていない。

